

畜舎で産まれたキリスト(ルカ 2:1-7)

私たちは 12 月になりますとクリスマスを祝ったりします。しかし、クリスチャンとして「なぜ神様ご自身であるキリストが赤ん坊としてこの世に来られたのか」という疑問をぶつけたことはありますでしょうか。今日の礼拝を通して神であるキリストがなぜ人間、しかも赤ちゃんとしてこの世に来られたのか。今日の聖書を見ますと、しかもいるところがなく、宿がなかったのが畜舎で生まれたと書いてあります。その後、飼い葉おけに寝かされることになった。なぜキリストが赤ちゃんとしてこの世に生まれて、しかも宿が見つからずいるところがないから畜舎、動物の家で生まれ、飼い葉桶に寝かされるようになったのか。これは私たちに何を知らせるための出来事なのかということに聖書を通して一緒に考えていきたいと思えます。ぜひ皆さんの心を神様が開いてくださり、なぜなのか、神様は何をおっしゃりたいのかというメッセージが聞こえてきて、しっかりと刻まれることを祈りたいと思えます。

1. 人間とその世界に神様がいられる場所はない。

それはまず第一に、人間とその人間の世界に神様がいられるような場所など全く存在しなかったというお知らせなのです。この世に神様が一緒にいられる人間、また一緒にいることができる世界の場所というところはどこにも存在しませんでした。それほど人間と人間の世界は完全に墮落している状態であり、完璧に汚染されて破壊されている状態です。元々神様は人を神のかたちに造られて、生めよ。増えよ。地を満たせよ。地を這うすべてのものを従えよと祝福されたのに、この世界が、人間がそのように変えられることになりました。

1) 完全墮落、汚染、破壊 ローマ 3:10、23、ヨハネ 8:44、エペソ 2:3

それでその祝福を蹴っ飛ばして、悪魔に惑わされ罪を犯して神様を離れることになり、その結果、ローマ 3:10にあるように「義人はいない。一人もない」。「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」。(ローマ 3:23)。神様に会えない存在となってしまう、その時からヨハネ 8:44「あなたがたは、悪魔である父から出た者であって」。悪魔の子になってしまい、だから生まれたときから、神の御怒りを受けるしかない子どもとして生まれることになってしまいました。このようにどうしようもない、どんなに暴れても抜け出すことができない墮落の問題に陥ってしまうことになってしまいました。

2) 神様に会えない状態 ヨハネ 1:9-11

だから、人間はいくら頑張っても神様を知ることも、神様に会うこともできない状態に陥ってしまったわけです。神様を離れてしまった人間はその時から、自分が神になってしまったり、お金を神として拝んだり、世の中の成功が神となり、それに囚われることになりました。それでそこから逃げられないように宗教や偶像崇拜、占いや迷信、おふだ、お守りなどに騙されることになり、結果、自分では幸せになりたいのに霊的なさまざまな問題を抱えて精神的に患い、そして、病を抱えることになり、人生のあらゆる部分が崩壊していくことになり、最終的には人間には一度死ぬことと、死後にはさばきを受けることが定まっております、それで永遠の刑罰に入れられることになってしまいました。そしてこれが自分の代で終わることなく、子孫たちに霊的遺産として受け継がれることになり、終わりがなくずっと続くことになります。ここから人はいくら暴れても出ることはできません。だから、世の中ではそれを運命という言葉を使っています。人間は完全に墮落して神を離れることになりました。神のかたちに造られて幸せな者、神の祝福を受けて造られたのに罪を犯した結果、神を離れてしまい、もう二度と神様に自分では会うことができない状態になりました。それが一番よく表されている聖書の箇所が、ヨハネ 1:9-11 なのです。「すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。この方はもともと世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方知らなかった。この方はご自分のところに來られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった」。神様を知ることも神様に会うこともできない状態になってしまいました。自分がいくら頑張っても、この問題はまったく動きません。神様に会うことなどできません。滅びの運命のまま終わってしまうしかない存在なのです。それを表すのが、イエス・キリストが來られたときに宿がなくて、畜舎で生まれることになったというメッセージなのです。

3) 絶対キリスト、Only キリスト

裏返しますと、だから人間には絶対キリストでなければいけない。キリストでなければ希望はない。キリストの他には希望などありません。絶対キリストが必要なんだというメッセージなのです。そして、そのキリストの他には道がないので、キリスト Only なんだ。世の中に良いものもたくさんあり、必要なものもたくさんあるでしょうが、それとキリストは別なのです。キリスト Only なのです。そのキリストこそ最初から救いのために約束されていました。女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く。その蛇の頭、悪魔の頭を踏み砕くキリスト。それから私たちの身代わりとして犠牲のいけにえになって、罪と呪いの問題を解決するキリスト。インマヌエルとして神様が私たちとともにおられるその約束のキリスト。そのキリストの他には希望がないというメッセージなのです。それほど私たちは自分が思っていることとは全く違う次元で完全に墮落し、全く絶望な状況であり、希望のない罪人なんだということを知らせていらっしやるのです。

2. 神様は、キリストを通して罪人を赦し、共に住まわれるという無条件の愛の現れ。

それからもう一つ、にも変わらず、神様はキリストを通してこのような罪人を赦して、その罪人とともに住まわれるんだという無条件の愛の表現なのです。にもかかわらず、この世に来られました。罪人を赦して、神様は人間と一緒にいるんだという無条件の愛と、誰も止められない救いの意志を表しているメッセージなのです。それが畜舎で生まれて飼葉桶に寝かされていたイエス様のことを通して私たちに語られるメッセージなのです。

1) 飼葉桶-キリストの十字架の贖いの死

ここで飼葉桶けというのは、実はキリストの十字架の贖いの死を象徴するものなのです。そのサインなのです。これからキリストが十字架で私たちの身代わりとして死なれるよと。それを通して神様は罪人を赦して、私たちとまたご一緒になるんだという誰も止められない神様のみむねでありみこころであり、強い神の意志なのです。それが示されているのが飼葉桶に寝かされているイエス様のことなのです。

2) ヨハネ 19:30、ヘブル 10:14、ヘブル 10:20

それで結局キリストが飼葉桶に寝かされたことを通して示された十字架の贖いの死によってすべてを完了したと宣言されたように、私たちがどうにもならない絶対神様に会えないまま滅びるしかないそのすべての問題を完璧に解決されることをおっしゃってるわけです。飼葉桶に寝かされたイエス・キリストが私の身代わりとして十字架で死なれることで、どうにもならない私たちのすべての問題を完璧に解決されると。そのことをそこでおっしゃっているわけです。ヘブル 10:14 には「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのさげ物によって永遠に完成されたからです」と言われています。それがキリストの十字架なのです。それからヘブル 10:20 にも「イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました」。このようにこれからなるよということを語っていらっしやるわけです。そして、キリストは実際にそういうことすべてを成し遂げられることとなります。なので、神様が私たちにいらっしゃることは、だから宗教求めているも勉強してもいくら良い行いに励んだとしても、あなたがたの問題は解決できない。それほど私たちは希望のない完全墮落の存在なんだということを畜舎を通して私たちに示されました。にもかかわらず、キリストを通して十字架を通して、そのすべての問題を完璧に解決されて、救いの祝福の働きを成し遂げられるんだということをおっしゃったので、これから私たちは宗教でも努力でも良い行いでもありません。ただ一つだけ、十字架を通して私たちの罪が赦されて、また神様と一緒にいることのために死なれ、すべてを完了なさって3日目によみがえられた、そのキリストであるイエス様を信じることで私たちは救われます。

3) ヨハネ 1:12、I コリント 3:16、エペソ 1:3

「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった」（ヨハネ 1:12）。今までいくら頑張っても無理だった、最初から不可能なことに私たちは励んでいたわけです。だから疲れて重荷を負うしかありません。さまざまなトラブルに巻き込まれるようになるのは当然なのです。しかし、それはもう終わりにするわけです。受け入れた人々、すなわち、イエスの名を信じた者は、神の子どもになる特権が与えられる。このイエス様を受け入れるそのときにすべての問題が終わると同時

に、「あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか」と言われるように、聖霊がその人の中に入って、神様とまた一緒になります。神様は離れてどうにもならない滅びの運命に捕らわれて、地獄に行くしかなかった私たちのすべてが終わり、聖霊が宿る、神様が内側に宿る神の神殿に変えられることになります。いつでしょうか。飼葉桶に寝かされていた、十字架で身代わりとして犠牲になられたそのイエス・キリストを信じて受け入れるときに、聖霊が宿ることで三位一体の神様がともにおられ、それを通してエペソ 1:3 に書いてあるその祝福が私たちのものになります。「神はキリストにあって、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました」。1ミリも足りないことがないように、天にある霊的祝福が与えられて、それから永遠に離れることなく、神様が元通りに私たちの内側に住まわれて、神の神殿となり、残りの生涯を歩いていけるようになります。つまり、キリストが畜舎で生まれたということは、このようになるという神様の意志なのです。そして、その通りになりました。

4) 神様が主人になることを 礼拝優先、御言葉優先、伝道優先、祈り優先-マタイ 4:19 成就、使徒 1:7-8 成就

言葉を変えますと、畜舎でイエス・キリストが生まれたということは、神様が神様を離れて悪魔サタンに騙されて奴隷になって従っていた私たちを助け出し、私たちともにおられて、そして私たちの主人となるよという神様の愛であり意志なのです。キリスト・イエスを通してすべての罪が赦され、神様が永遠にともおられる存在になりました。なぜなのでしょう。人間は自分が自分の主人であっては人生を生きていきません。自分が自分の主人であるということは、その人が気づいていないだけであって、目に見えない空中の権威を持つ悪魔サタンが主人なのです。だから人生、幸せなどは存在しないし、面白いことなど一切ありません。希望などありません。みなが少し良くなったときに浮かれて勘違いしているだけであって、本物の平安と安らぎと幸せなどは存在しません。どこにそれが存在しうるのでしょうか。あなたは、あなたの父である悪魔から出た者であると言われる状態のままでは、何にどこに希望を見ることができのでしょうか。キリスト・イエスが十字架で死なれることで、そのすべての問題を終わりにして罪が赦され、神様を離れていた私たちが神様と一緒にできるようになりました。そのようにするよ、そのようになるよと宣言しているらっしゃる場面が、畜舎で赤ちゃんとしてイエス・キリストがお生まれになったということなのです。つまり、今までは自分中心で、またお金が中心で、成功が中心で生きてきた、その生き方を捨てて、神様が主人となるというのは、神を第一にして礼拝を優先する人生に変えるよという意味なのです。それが神様が主人になることです。そして、そこにのみ幸せがあり、そこにのみ人生の勝利の力が与えられます。礼拝を優先して自分の思い、自分の考え、自分の主張を、自分の感情ではなくて、神のみことばを聞いて、その神のみことばを優先する人生、そのような生き方にするよ。これが神様が主人となるという意味なのです。皆さんがなぜつらいのかと言いますと、つらいことがあるからではなくて、自分の思いに囚われているからです。なぜイライラして、なぜつまづくのかと言いますと、そういうことがあるからではなくて、自分が自分の思い、自分の考えで生きているからです。それに縛られているから、そこを越えられないから、いつも引っかかるのです。見事に悪魔サタンがそれを利用するわけです。皆さんよりもっと理不尽でひどいことがあってもみことばが優先であるヨセフはつまづくことなどありませんでした。よくよく考えてください。特にレムナントの時から。キリストがこの世に体をもって来られました。なぜなのかというと、私たちの主人となるためです。それが私たちが勝利し、私たちが生きる道であり、幸せになる唯一の方法なのです。それが可能になりました。イエス・キリストを受け入れることで。イエス様を信じて受け入れたにもかかわらず、キリストが神様が主人になることを拒否するプロセスがあります。あまりにも今まで違うものが、そのやぐらが長く根付いていたのでなかなか切り替えることが難しい、そういうプロセスはありますが、神様はキリストのいのちをもって救い出した神の民ひとりひとりを愛して諦めることなどありません。どんなことをしてでも神様をキリストを主人として迎えるようにさせる方なのです。みことばが優先であれば、当たり前に残りの人生は福音宣教、伝道が優先であり、生きる理由であり、目的である、そのような人になること、これが神様が主人となることなのです。神様は、復活なさったキリストは、今現在も世界中の人々が救われることのために地球を動かして、世界のすべてをひとりひとりの人生を動かしていらっしゃる方なのです。だから、そのキリストが主人となるということは、福音宣教が優先なのです。勉強が優先ではなくて、福音宣教が優先なのです。

そして神様が主人となるというのは、福音宣教が優先であるがゆえに、それは自分の力ではできません。だから、祈りが優先になります。自分で頭を使っているいろいろな工夫する前に、聖霊が臨まれると力をいただけます。祈りが優先になることです。どんなに理解できない状況、どんなに絶望的な状況であっても、そこに溺れることなく祈りが優先なのです。なぜなら神様が主人ですから。自分が自分の人生の主人ではないので。このような人に変えようとしていらっしゃるのです。なぜなのかと言いますと、マタイ4:19、イエス様がおっしゃいました。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう」。人間をとる漁師にするために、神様は私たちの主人となろうとしていらっしゃいます。キリストが主人にならない限りは、過去の滅びの運命にそのまま翻弄されます。解放されたにもかかわらず。だから人間をとる漁師とはまったく縁のない人生を送ってしまいます。なんと残念でしょうか。結局、キリストが主人となり、神様が主人となるということは、イエス様が最後におっしゃいました。それはあなたがたは知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれると力を得て、エルサレムからユダヤ、サマリア全土、地の果てにまで私の証人となるというみことばが私に成就される、そのような人生を生きることになります。そうなるために、私たちは今までは何を食べるか、何を飲むか、何を着るか。なんでああいう人間がいるのか。言い訳ばかりして心配と不安の中を生きてきた人生を終わりにして、キリストが主人となることによって、今申し上げましたこのような証し人としての、世の光としての人生を歩んでもらうために十字架で死なれて、そのためにこの世に来られたわけです。そのことを宿がないから畜舎で生まれたキリストを通してしっかりと心に留めていただきますよう。

なので、このメッセージをしっかりと握って、素直に神様を知ることができない、神様を否定して神様に会えない、絶対会えない自分のことを素直に認めましょう。そして、そこで終わってはいけません。にもかかわらず、キリストを通して私を訪ねて、私の内側に入って来られたその神様を主を賛美して感謝しましょう。条件、理由などありません。無条件、感謝しましょう。何があっても、どんな状況であろうが、まず感謝しましょう。そして、これが今まで申し上げましたように、ほかのなにかではなくて、ただ Only キリストの犠牲によって成し遂げられたということを忘れることなく、キリスト以外のすべてをそういう意味でちりあくと告白しましょう。それが良いものであれ、悪いものであれ、すべて切り捨てます。Only キリストになるように。そして、ただキリストによって新しく生まれて、ガラテヤ2:20になったことを告白しましょう。私は十字架とともに死んだ。今は私のために代わりに死んでくださった私を愛していらっしゃるキリストが私の中に生きていらっしゃいます。そのキリストを信じる信仰によって生きる者です。私はそういう存在なんだ。それが皆さんの脳細胞に実際に刻印されてそうなんだとなったときに、霊的サミットと呼ぶようになります。そうでないと、物事を見る目が全部間違ってしまうので、判断も選択も全部ずれてしまいます。だから一生懸命勉強しないといけないでしょうが、その前に霊的サミットにならないといけません。私たちにはたまたまはありません。神様のみこころでしょうけれども、2部礼拝も同じ十字架の箇所なのです。十字架を通らないといけません。Only キリスト。そのキリストによって私はもう死んだ。私の内側にキリストが生きていらっしゃる。そのことを認めて感謝しつつ、ならば私に残っている課題は、自分の中でそのキリストが主人になるように祈りましょう。主人になるように。主人になるとはどういうことなのでしょう。言葉を変えますと、自分の内側に神のやぐらが立つように祈りましょう。神のやぐらが立つというのは、短く申し上げると、キリストに答えを出して明確にならないといけません。どんな過去があろうが、今現在どういう問題があろうが、何がどうであれ、何と言われようが、キリストの他に答えはありません。絶対キリストなのです。Only キリストなのです。その答えを出して、だからこそ私の人生の理由は福音宣教、伝道宣教のほかにはない。そのために私は生まれてきて、そのために生きるんだという答えを明確に出すことが神のやぐらが立つことであり、キリストが主人となることです。そうならない場合は、いくら言葉で何とか言っても、まだまだキリストは主人ではありません。自分が心の王座に座って、キリストはずっと下の方にいらっしゃるのです。それは悪魔が主人ではないけれど、であるのと全く同じ効果になります。なぜせっかく神の子ども、罪が赦されて神様がともにおられるいのちを持つ者になったのに、そのように騙されるのでしょうか。これを祈りましょう。私たちの祈りを課題は、ある意味一つしかありません。キリストが私の主人となるように。そのために自分の中にそれを邪魔する今までの違うやぐらがあるということに気づくようになると思います。それが全部砕かれていくように。キリストが主人となり、神のやぐらが立つように。そうすると残りの人生の旅程は、どんなことがあってもすべてが全部益となり、人を生かすための旅程に導かれることになります。神が主人であればそうなります。全部が。悪いことも裏を見て、全部が祝福に変わ

り、人を生かす旅程に導かれ、それが世界中に届くように福音宣教の答えのある道しるべに従って歩くことになります。エルサレムから地の果てにまで時刻表、道しるべに従ってどんどん広まって歩む最高の勝利の人生になります。いつでしょうか。キリストが神様が主人となるときに。私たちの力ではできないし、私たちの能力は実は関係ありません、逆に申し上げます、私たちが無能であり、環境が険しいからこそ良かったと言えるものなのです。それとまったく関係なく、Only キリスト、Only 聖霊の力によって成し遂げられることなので。誰もこの奥義はわかっていません。クリスチャンでもこれがわかってないと言い訳ばかりで、自分の限界に閉じ込められ、不平不満に走るしかありません。それを終わりにすることがキリストを主人として迎えることです。すぐにできないかもしれませんが、それが神様のみむねであり意志なのです。神であるイエス様が人間としてでもなく、赤ちゃんとして生まれたこと、しかも畜舎で生まれたこと、そうだとでもいっちゃるところがないのに、そうしてでもとにかく来られたということは、私たちの主人となって世界福音化をしようとする神様の意志なのです。それを改めて教えられて、心に留めて感謝とともにキリストを主人として迎える祈りの主人公になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。神様がいられるところない完璧に墮落して汚染されて破壊している私たちのところにわざわざ来られて、畜舎で生まれて、十字架で犠牲のいけにえになられることで、そのすべての問題を解決して私たちとともにおられ、そして私たちを通して神の栄光をこの世に表すために主人となろうとしていらっしゃるその神様の止められない無限の愛と強い意志を改めて確認して、感謝とともに Only キリストの信仰に立って、そのキリスト主人として迎える祈りをささげる信者になるように。それでいのちの運動に用いられる信者になるように。サタンが一番恐れる信者になるように、ひとりひとりを祝福してください。

イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。